



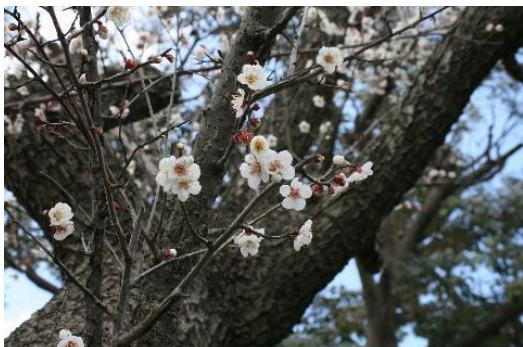
### 新クマ舎オープン間近

震災から1年、早いもので震災5日後に生まれたライオンの赤ちゃんたちも立派な大人顔になってきました。何とか1年を乗り切り来園者を喜ばせてくれたので、誕生会でお祝いをしました。3月生まれの動物はほかにもクロサイやカバなどがいることからまとめて平成24年3月11日に行いました。詳しい内容は飼育日誌のほうをご覧くださいと思います。また、この日は震災1周年ということで各地で追悼式が行われましたが、当園でも犠牲者を悼み、地震発生時の14時46分に黙とうを捧げました。職員を始めお客さまにも協力いただきました。この場を借りてご協力いただいた来園者の皆様にお礼申し上げます。



1年後の3兄妹

寒い寒いと言っていた今年の冬でしたが、少しずつ季節が移ろいでいくのが感じられます。園内でも、白梅や紅梅がやっと満開になりました。これから桜の季節を迎え、一層園内も華やかな雰囲気になっていきます。そんな中、新クマ舎「クマのすみか」の工事も急ピッチで進み、平成24年4月7日には一般公開できる目途が立ってきました。これまでかみね動物園ではツキノワグマを飼育展示していましたが（以前マレーグマやヒマラヤグマを展示していたこともある）、この機会に北海道からエゾヒグマを迎えることとしました。日本在来クマ2種の比較展示です。



白梅



紅梅

エゾヒグマは日本最大の哺乳類で、ツキノワグマと比較してもその大きさは見た目にもはっきりとわかるほどです。また、獰猛さにおいてもヒグマは群を抜いており、生息する北海道ではたびたび人間への被害が報告されています。このコラムでも書いたことがありますが、

人間社会やその活動が野生動物たちの生息域とクロスするようになってお互いに不幸な結果を招きます。そんな中でも一番甚大な被害はクマ（特にヒグマ）によるものではないでしょうか。



クマのすみかイメージ



もう少しお待ちください

たびたび人間が襲われることからクマは肉食とされている方もいるかもしれませんが、あえて言うなら雑食で、木の実や果実、トウモロコシなどの植物性のものを始めアリやカミキリムシなどの昆虫類からザリガニやサケ、ウサギなどなんでも食べるようです。北海道の明治から昭和にかけては、土葬の墓地を掘り返し埋葬されて間もない死体を食べられたという記録も残っているそうです。また、映画などでは立ち上がった姿がよく見られますが、クマは、踵が地面についてない犬や猫と違って、人間と同じように踵がつくため、立つことができます（同じ理由でレッサーパンダも立つのです）。また泳ぎも得意で、北海道天塩地方から利尻島までの18キロメートルを泳いで渡ったという記録も残っているようです。そんな習性に期待して、新クマ舎ではプールをつくってみました（観覧側との緩衝の意味もありますが、さて、泳ぐでしょうか）。

展示場は、前面からガラス越しに観覧するほか、獣舎の上からも見られるようにしました。動物園の中では一番高い場所だと思いますので太平洋も見えます。平成23年の「サルの楽園」オープンに続きかみね動物園の新しい施設、どうぞ楽しみにして下さい。



来園するエゾヒグマ



園内移動中のツキノワグマ

（補足）文中、食性や墓地掘り返し、泳ぎの記録の記述は「ひぐま・その生態と事件」（斎藤禎男・著）を参考にさせていただきました。



平成24年3月11日14時46分

こちらのサイトもどうぞ（連載中）：[どうぶつのくに](#)（新しいウインドウが開きます）

（平成24年3月17日）

2012年3月17日

---

## 過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)

[平成29年](#)